

【公報種別】特許法第17条の2の規定による補正の掲載

【部門区分】第3部門第3区分

【発行日】平成31年1月24日(2019.1.24)

【公開番号】特開2018-90810(P2018-90810A)

【公開日】平成30年6月14日(2018.6.14)

【年通号数】公開・登録公報2018-022

【出願番号】特願2018-104(P2018-104)

【国際特許分類】

C 08 F 4/02 (2006.01)

C 08 F 210/02 (2006.01)

C 08 F 4/6592 (2006.01)

【F I】

C 08 F 4/02

C 08 F 210/02

C 08 F 4/6592

【手続補正書】

【提出日】平成30年12月5日(2018.12.5)

【手続補正1】

【補正対象書類名】特許請求の範囲

【補正対象項目名】全文

【補正方法】変更

【補正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項1】

i) 連結化合物及び該連結化合物と接触する担体物質、及び

i i) 2以上の芳香族基を有し、2以上の該芳香族基がそれぞれ芳香族基に1以上の極性一塩基性基を有する多官能性化合物、

を含む活性剤前駆体組成物であって、該連結化合物が有機金属化合物、非有機金属化合物又はそれらの混合物であり、該連結化合物が有機金属化合物である場合には、式：

$M R^1_s Q_{t-s}$

を有する有機金属化合物であり、式中、MはMg、Sc、Y、Ti、Zr、Hf、V、Nb、Ta、Zn、B、Ga、In、Sn及びこれらの混合物から選択される金属原子を表し；R¹は同じであるか又は異なってもよく、且つC₁～C₂₀ヒドロカルビル基を表し、該ヒドロカルビル基のベータ炭素はSiで置き換えられてもよく；Qはヘテロ原子又はヘテロ原子含有有機基を表し、該ヘテロ原子は該ヘテロ原子を介してMに直接結合し；tはMの原子価を表し、sは2～tである数である、また、該連結化合物が非有機金属化合物である場合には、式：

$M^1 Q^1_t$

で表される非有機金属化合物である、式中、M¹はMg、Al、Sc、Y、Ti、Zr、Hf、V、Nb、Ta、Cr、Mo、W、Mn、Fe、Co、Ni、Cu、Zn、B、Ga、In、Si、Ge、Sn、La、Ce、Er、Yb、Lu及びこれらの混合物から選択される金属原子を表し；Q¹は同じであるか又は異なってもよく、且つヘテロ原子又はヘテロ原子含有有機基を表し、該ヘテロ原子又は該ヘテロ原子含有基は該ヘテロ原子を介してM¹に直接結合し；tはM¹の原子価を表し、前記多官能性化合物は芳香族ポリオールである。

活性剤前駆体組成物。